

研究助成の概要.VI

- ① 移動できるのになぜ道が分からぬのか—ユーザのエンパワーメントを促すデジタル地図の実現にむけて—
- ② 学校法人 関西学院大学 理工学部
- ③ 研究特別任期制助教 杉本 匡史
- ④ <https://ist.ksc.kwansei.ac.jp/~nagata/>

4. 研究分野及び題目

(III-6) デジタル道路地図の新しい概念や形態に関する研究

5. キーワード

スマホ地図、Google マップ、経路の記憶

6. 研究内容

(1) 研究の目的

本研究ではスマートホンのデジタル地図(以下、スマホ地図)の使用が、移動におけるユーザの客観的成績を低下させる一方、「自己評価を向上させることで、客観的成績と自己評価との間に乖離を生み出し、『自信満々な方向音痴』を生み出す」という仮説を、心理学的観点から検討する。得られた知見を、効率的な移動だけでなく、地図によって表象される世界に対するユーザのより積極的な関わり合いを促すデジタル地図開発に活用する。

(2) 研究のゴール

本研究のゴールは以下の 3 点を示すことである。(1)移動において人間が行っていた認知をスマホ地図が代行することで、人間自身が記憶している情報量が減少すること。(2)その一方、スマホ地図が提供する情報やスマホ地図が行った判断を、ユーザは自分に誤って帰属させ、自身の記憶を過大評価すること。(3)以上 2 つの理由によって、客観的成績と自己評価との間に乖離が生じ、自信満々な方向音痴がうまれること。

移動できるのになぜ道が分からぬのか —ユーザのエンパワーメントを促すデジタル地図の実現に向けて—

- スマートホンを用いて提示される地図(スマホ地図)が経路記憶における**客観的指標**(経路記憶・シーン再認)および**主観的指標**(移動時の不安・移動に対する自信)に与える影響を明らかにするため、実空間でスマホ地図/紙地図を用いた移動実験を行った



- 実験の結果、「**スマホ地図は紙地図と比較して、経路記憶獲得を阻害するが、この阻害はユーザに自覚されない**」(グーグルマップ効果)ことを明らかにした

